

【令和2年度外来診察表】

【受付時間】

7:30～11:30（月～金） 及び 14:00～16:00（耳鼻咽喉科:月水金）
15:20～16:30（小児科）

令和3年2月18日現在

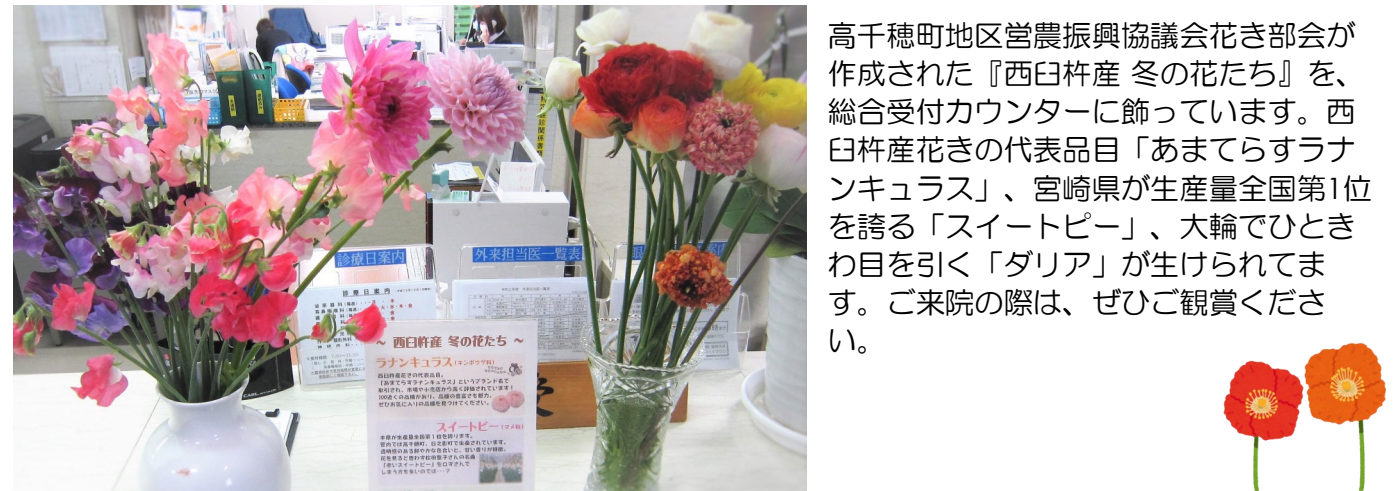
診療科		月	火	水	木	金
内科	1診	押方慎弥 （第1・3・5）	押方慎弥	押方慎弥	隔週 （押方慎・奥野）	押方慎弥
	2診	佐藤祐二	石原あやか （第2・4）	石原あやか	石原あやか	石原あやか
	3診	奥野綾子	石原和明 （第1・3・5）	石原和明	石原和明	石原和明
	4診	塚本智大 （第2・4）	奥野綾子	隔週 （塚本・奥野）	塚本智大	塚本智大
	5診	押方真	押方真	押方真	押方真 （第1・3・5）	—
神経内科		神経内科は第4金曜日のみ（完全予約制）				
外科		久米	久米	久米	久米	久米
整形外科	1診	塩月	塩月	塩月	塩月	塩月
	2診	福嶋	福嶋	福嶋	福嶋	福嶋
眼科※		（熊大眼科）	—	（熊大眼科）	—	（熊大眼科）
小児科		午前 興柁／午後 押方真	興柁	興柁	興柁	興柁
泌尿器科		（今村）	—	—	（元島）	—
循環器科		—	隔週 （亀谷・松浦）	—	—	隔週 （七田・稲森）
耳鼻咽喉科		甲斐	甲斐	甲斐	甲斐（第1・3・5） （熊大医 第2・4）	甲斐
皮膚科		（青井）	—	（澤村 ）	—	隔週（金子・林）

※眼科受診には予約が必要です。（急患を除く）

平日の月・火・木曜日の午後2時から午後5時までに、お電話でご予約ください。

※第3金曜日の小児科は押方真医師による診察です。臨時休診や診療体制が変更になる場合があります。来院前にご確認ください

西臼杵産 冬の花たち



ユニバーサルサービスについて学びました。



2020年11月5日、ユニバーサルサービス（障害の有無などによって隔てられない、すべての人に公平なサービス）をテーマに病院職員を対象とした接遇研修会を開催しました。宮崎県障がい福祉課職員の方に「障がい者差別の解消に関する条例」について、盲導犬使用者の後藤文一さん（延岡市）に「視覚障害者・盲導犬使用者として病院に求める配慮」についてご講演いただきました。

認知症看護認定看護師が誕生

資格を取得した稲葉看護師から、メッセージをお伝えします。

こんにちは。高千穂町国民健康保険病院2病棟看護師の稲葉紗代子と申します。生まれは高千穂町岩戸で、当院勤務は今年で8年目となります。以前より認知症ケアに興味があり、昨年の12月に日本看護協会の認知症看護認定看護師の資格を取得いたしました。認知症看護認定看護師には、①認知症の軽度～重度の各期に応じた治療や生活環境の調整を行う②認知症ケア体制を作り上げる③認知症に伴う症状を和らげたり予防する、といった役割があり、認知症の専門的知識と技術をもって看護を行います。資格を取得できたのも、病院をはじめ、地域の皆様にご理解とご協力をいただいたお陰であると大変感謝しております。この場をお借りしまして、厚く御礼を申し上げます。また、研修中や受験前には、私自身の家族にもずいぶん迷惑をかけました。全面的に協力してくれたことに感謝しています。

私は、看護学校を卒業した後、急性期病院、有料老人ホーム、介護老人保健施設、訪問入浴、デイサービスなどの勤務を経て、現在に至ります。その中で、多くの高齢者との出会いがあり、認知症ケアを含めた高齢者ケアの多くのことを学びました。高齢者施設での勤務を終え、再び病院勤務を始めた時に、病院で認知症ケアが必要な方が増えていることを実感しました。そして、生活の場である高齢者施設とは違い、治療の場である病院での認知症ケアは、非常に難しいと感じました。どこの急性期病院でも、治療が優先されることにより、認知症ケアを充実させることが難しいという問題を抱えています。私は、どうすれば認知症の方が安心して入院生活を送ることができるのか解らず、ずっともやもやした気持ちを抱いていました。そして、認知症ケアの専門的知識や技術不足が理由で、何も解決できないまま看護師として働き続けることはできない、認知症について深く学び、このもやもやした気持ちをどうにかしたい、と考えるようになりました。病院からの後押しをいただき、家族の協力も得て、2019年4月に熊本保健科学大学キャリア教育研修センターの認定看護師教育課程に入学し、半年間、認知症看護について学びました。

大学の講義を受け始めて間もなく、「できていない自分」に出会い、とても落ち込み、悩みました。「今まで私は何をしてきたんだろう」と、自分の看護が覆されるような思いでした。しかし、学びを積み重ねていくごとに、今までの自分の看護を冷静に振り返り、評価することができるようになりました。5週間の病院実習では、2名の高齢の患者様を担当させていただきました。ひとりひとりの患者様とじっくり時間をかけて向き合い、看護を行う機会に恵まれました。実習を通して一番の気づきは、高齢者の持てる力の強さです。今までの長い人生の中で、多くの困難を乗り越えてきた高齢者は、私が想像していた以上に強い力を持っておられました。病気に直面しても、乗り越えようとする前向きな姿勢に、私の方が元気をいただきました。その持てる力を最大限に引き出すのは、私たち看護師を含めた、それぞれの病院スタッフの役割なのではないかと強く感じました。そして、認知症ケアは病院だけで完結させるのではなく、地域で完結させることが必要であり、病院のスタッフだけではなく、地域の様々な職種の方と連携し、情報交換をしながら認知症の方を支えていくことの大切さも学びました。

「できれば、認知症になりたくない」と考える方もいらっしゃると思います。認知症になる方の数は、確実に増えており、2012年に約462万人（65歳以上の7人に1人）であったものが、2025年には約700万人（65歳以上の5人に1人）になるといわれており、誰もが認知症になる可能性があります。認知症の一番の原因は、「歳を取ること」だと言われています。年々、男女ともに平均寿命が伸びており、長生きをする方が増えたため、必然的に認知症になる確率も高くなります。しかしながら、「認知症になったらおしまい」「認知症になったら何もわからなくなる、話せなくなる」といった偏見や先入観が、いまだ根強く残っている現状があります。大学の看護倫理の講義で、「偏見を持たない人はいない」と教わりました。認知症は、「認知機能が低下することによって、日常生活が障害される」ということです。認知症になったからといって、「自分らしさがなくなる」「何もできなくなる」「何もわからなくなる」ということではないのです。認知症に対する正しい知識を広めていくことで、少しでも偏見や先入観をなくし、もし自分や自分の大切な人が認知症になっても、安心して生活ができる地域づくりに貢献していきたいと考えています。私も、これから更に認知症について学びを深め、自分自身が持っている偏見や先入観をなくしていきたいと思っています。そのためには、専門書を読むことや研修に参加することだけでなく、「認知症のご本人から話を聴く」ということも大切であると思っています。

「もしかしたら自分は認知症なのではないか」「身近な人が認知症なのではないか」と悩んでいる方はいらっしゃいませんか。「どこに相談すればいいのかわからない」「いきなり病院受診するのは勇気がいる」「歳のせいだから仕方ないかな」など、様々な思いを抱いている方もいらっしゃるかもしれません。大切なのは、「早く認知症に気づく」ということだと思います。認知症の総合相談窓口は、高千穂町地域包括支援センターとなっています。また、かかりつけの病院の先生や、入院中の場合は、担当の先生や病棟のスタッフの方に相談されてもよいかと思います。もちろん、高千穂町地域包括支援センターや地域の病院と当院は連携しておりますので、病院に来られた時などに、私に声をかけていただいても構いません。認知症看護の勉強を始めたばかりで、まだまだ力不足ですが、困り事について一緒に考えさせていただきたいと思っています。また、ご家族の方はもちろん、地域で高齢者ケアに携わっていらっしゃる方も、ケアの困り事などありましたら、ぜひご相談ください。どうぞよろしくお願い致します。

